企画 1 地域社会における防犯意識向上のための寸劇を通じた啓蒙活動

団体の名称
守山ゼミナール

代表者氏名・学部学科名等
山崎 美香
法律政治学科　3年

実施期間・日程

平成23年9月1日～12月3日

実施内容

守山ゼミでは、昨年度は地域社会における安全保持のための防犯パトロールを警察や自治体との協力で行った。その際、犯罪の被害者になりがちなのは、子どもと高齢者である。これらの人々を対象にした防犯活動が必要なのだと痛感した。そこで、今年度は、最も理解しやすい形での活動として、寸劇を採用した。東京都や警察などの意見を聞き、最もニーズの高い二つのパターンを用意した。①高齢者向けの「おれおれ詐欺」防止劇、②子ども向けの「不審者声かけ」防止劇である。この準備として、ゼミ生を二つの班に分け、①高齢者班（主として3、4年生）、②子ども班（主として2年生）とし、それぞれにつき、脚本作成、配役決定、道具その他の係が自らの担当を準備した。そして、9月に実施された守山ゼミの3学年合同合宿を利用し、演劇リハーサルを何度も繰り返し、これを見た他のゼミ生が種々の感想や助言を行い、これを参考に、脚本などの差し替え、演技の変更などを行なった。

次に実際に寸劇を上演する機会を得るために、守山先生にお願いして東京都青少年治安対策本部、高尾警察署、八王子警察署などと交渉してもらった。その結果、まず高尾警察署で①高齢者向け「おれおれ詐欺」寸劇を10月1日に実施することが決定した。そこで事前に会場を視察して段取りを計画し、また地域住民への広報方法について、高尾警察署生活安全課の担当者と協議した。高尾警察署の要望では、3年生を中心とした寸劇のほか、会場において「拓殖大学生による絆～架電作戦」と称する家族へ電話をかける実演指導を行った（2年生が担当）。これは、学生が実際にその場で家族に電話をして、「おれおれ詐欺」に対する注意を促すものである。

その後、八王子警察署、小金井警察署からも寸劇上演の要請があったのだが、八王子警察主催の行事ではあいにく平日午後の開催であり、一部の役者の都合がつかず残念ながら断念した。他方、小金井警察署の行事については、かなりの時間をかけて準備したが、当日、暴風雨による天候悪化のため、屋外会場である本イベントの中止を小金井警察署が決定し、実施には至らなかった。さらに、②子ども向け「声かけ」寸劇についても、各警察署少年課などに実施を打診したが、この種の行事はほとんどの小学校で4、5月の新学期に実施しており、これも残念ながら機会が得られなかった。

寸劇を行っている様子（10月1日実施）

左が犯人役、右が被害者役

成果

高尾警察署において「おれおれ詐欺」寸劇の上演を通じて、地域社会の人々と交流、地域のための貢献活動が出来た。高尾警察署の講堂を利用して開催した今回の上演には高齢者を中心に約100名の地域住民が参加。会場は満席状態だった。まず、守山先生による「振り込め」詐欺の講演があり、その特徴として、①この種の詐欺は欧米諸国では発生しておらず、日本やアジア諸国の固有の犯罪現象であること、②それは家族構造に関連し、親や祖父母が子どもや孫の不始末を肩代わりする風潮があること、③日本人は他人を信じやすく、犯罪に対しても防御的ではないこと、などの説明がされた。

次に寸劇を実施した。脚本は振り込め詐欺の中でも最も典型的な孫が祖母にお金をねだる「おれおれ詐欺」タイプである。これは近年、このタイプが復活して増加しているという警察の指摘に従ったものである。そこで、配役として犯人グループ（偽孫、偽警察官、偽弁護士）、被害者（祖母）、その孫、ナレーターを配置して、実演を行なった。寸劇の予行演習では、現職警察官からの指導を受けており、それを参考として、犯人グループはなるべくリアル感を出すために、衣装や小道具にも工夫を凝らして不良らしい態度、服装、言葉遣いなどに注意した脚本を用意した。約20分程度の寸劇であったが、参加者にこの詐欺について理解してもらうことができたと思われる。

そのあと、高尾警察生活安全課の担当官から振り込め詐欺の現状と防止方法について講話があり、参加者は、防止方法を学ぶことができたと思われる。

会場には、このほか、読売新聞社立川支局の記者と八王子ケーブルTVが取材に訪れ、守山先生と我々も取材を受けた。読売新聞は残念ながら他の重大事件のために不掲載となったが、八王子ケーブルTVは実施に「拓大生振り込め詐欺防止に一役」という題名で、後日、実際に放映された。

当初予定していた参加者へのアンケート調査は会場の都合で実施できなかったが、高尾警察署長、生活安全課長、地域自治会関係者の方の話から、①プロの劇団よりも学生の劇団の方が新鮮なイメージがあり、より説得力があった、②教授の講演、生活安全課の講話と寸劇が結びつくことによって振り込め詐欺の実態を理解できた、などの感想が寄せられ、今回のゼミ生による寸劇は成功したものと思う。

被害者が孫に連絡をとるシーン

詐欺の対策について発表を行った

反省点・感想及び意見

今回の寸劇を通じた防犯啓蒙活動において反省点も多かった。①まず、この種の活動は実施のチャンスがないと意味がなく、そのためには警察をはじめとする各機関との協議が必要であるが、チャレンジ企画の活動期間が限られているために、各機関が計画した行事の時期と一致せず、実現しないことが少なくなかった。とくに、我々が準備したもうひとつの企画「子ども向け寸劇」は、多くの小学校が新学期に実施するために、チャレンジ企画の実施期間と重ならず、実現できなかった。また、屋外などを利用した行事の場合、天候などに左右されることである。②寸劇はチーム活動であるために、配役などの関係者が実施日と都合が合わない場合、実施が困難となることである。こちらでは、一応、一部の配役の都合が悪い場合を考えてダブルキャストを組んで、なるべく支障が出ないようにしたが、それでも実際には八王子警察署の企画には都合がつかず、機会を逃すこととなった。③仮に寸劇が実施できた場合でも、果たして地域社会に対して期待するだけの効果があったかどうか疑問であること。これは我々の問題ではなく、各主催者の広報活動の問題である。つまり、高尾署の活動でもそうであったが、地域の参加者は大半が意識の高い人たちであり、本当にこのような問題を理解しなければならないような潜在的被害者が集まらない問題である。どの警察署でも同様の悩みがあるようで、本当に聞いて欲しい人たちは参加せず、日頃から用心している意識の高い人たちが参加している。そこで、なるべく多くの人たちを呼び込む広報活動や行事のあり方を考える必要がある。

しかし、今回の寸劇活動を通じて、警察の活動の一部をみることができたし、「振り込め詐欺」の深刻さも理解でき、また会場の参加者の中には、突然犯人から電話がかかってきたとき、引っかかってならないと思いながらも、実際には頭が真っ白になるという意見もあり、根絶への難しさを感じた。ゼミ生の中には将来警察官を目指す者もいるので、警察官のインターン経験もできたのは収穫だったと思う。

今後の計画・展望

守山ゼミでは、「大学で学んだことを地域に還元する」ことをモットーとし、学外活動を重視している。今後も継続的に活動して、守山ゼミの伝統となるように、後輩のゼミ生とも、活動のあり方などの議論を続けている。

今回の寸劇活動はチームプレイなので、各メンバーの予定が異なり、どうしても自由な活動が計画しにくいところがあった。そこで、次回以降は、チームで実施する寸劇の可能性も探りながら、他方で、メンバーが個別に参加できる活動も検討したい。

①寸劇を実施する場合には、なるべく長期的な計画を立てることである。これは、今回の実施で警察などが予定している日時と一致させるのが難しいという反省から、実施が可能な日をなるべく早めにゼミ生の間で話し合うことが必要である。先生にも仲介役になってもらい、関係機関と相談してもらうことにしたい。

②他に検討中の企画は、警視庁が実施している「ピーポーズ活動」である。これは警視庁のマスコット、「ピーポくん」（人々のピープルと警察のポリスを合わせた名称）からイメージされたボランティアの参加活動である。個人でも団体でも登録可能であるが、利点は個人の都合で自由に活動に参加できる点である。たとえば、敬老の日に、警察官に同行して各高齢者宅を訪問して、振り込め詐欺の被害に遭わないように注意する、といった活動である。現在、東京都青少年治安対策本部と協議しており、今後はこの種の活動への積極的な参加を検討したい。

支出報告書

支出総額	223,020円
給付額	200,000円

[内訳]

（単位円）

品名	単価	個数	小計
＜物品費＞			
デジタル・ビデオカメラ（HDC-TM750）			74,800
PC用スピーカー（Companion2）			11,980
インク用カートリッジほか			5,040
＜交通費＞			
茗荷谷－高尾警察署往復	2,400	40人（延べ人数）	96,000
茗荷谷－東京都庁往復	620	10人（延べ人数）	6,200
茗荷谷－小金井警察署往復	1,220	10人（延べ人数）	12,200
茗荷谷－高尾駅往復	2,100	8人（延べ人数）	16,800

合計　223,020円

「絆架電作戦」として2年男子が実際に家族に電話をしている様子